

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4月ドイツ I f o 企業景況感

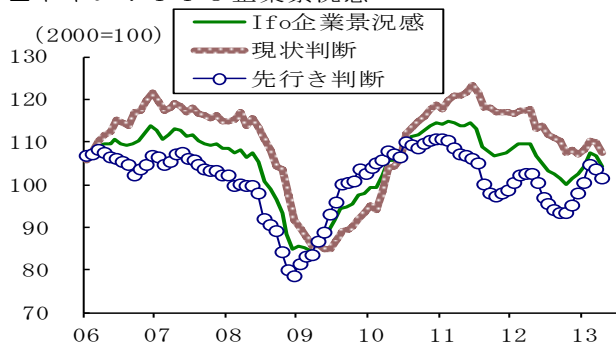
発表日：2013年4月24日(水)

～天候要因もあるが、業況悪化は内需関連にも及んできた～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

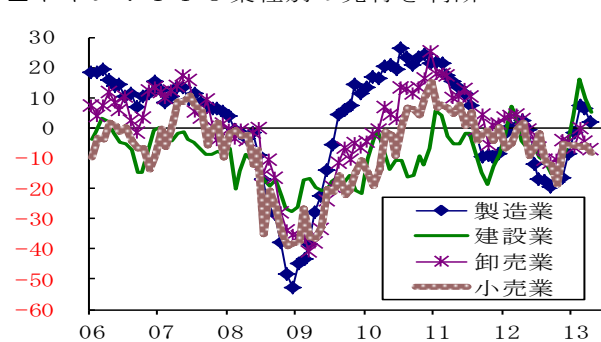
- ・ 4月のドイツの I f o 企業景況感指数（2005年=100）は2ヶ月連続で低下した。内訳は現状判断、先行き判断がともに悪化（左図）。23日に発表された4月のPMI総合指数も昨年11月以来となる好不況の分岐点50を下回り、ドイツ景気が今年の1～2月をピークに失速傾向にあることが確認された。
- ・ このところのドイツの経済指標の軟化は、主に海外景気の減速懸念を反映したものと考えられる。主要輸出先であるユーロ域内各国では厳しい財政緊縮と失業増加で景気の冷え込みが続いている。米国や中国など域外主要国の最近の経済指標にも冴えないものが目立つ。日本の積極金融緩和期待を背景とした円安進行（対円でユーロ高進行）も、輸出企業の業況悪化につながっている可能性がある。
- ・ 一方、失業率の低位安定と賃上げ妥結を受けた良好な雇用・所得環境を支えに、これまでのところドイツの内需は総じて底堅さを保っている。だが、今回の I f o 指数では、建設業や小売業など内需関連の業況判断も悪化している（右図）。春先にかけての季節外れの気温低下が響いた可能性もあるが、現状判断のみならず、先行き判断も軒並み悪化している点には注意を要する。輸出を起点に景気の先行き不透明感が高まっており、海外景気の減速が長引くことで内需の腰折れが懸念される。
- ・ 度重なる経済指標の悪化と、景気下振れを警戒するECB高官の発言が相次いでおり、利下げ観測が高まっている。利下げ余地の乏しさを考えれば、今のところ5月2日の政策理事会での利下げ見送りをメイン・シナリオと考えているが、中小企業支援など新たな政策対応を打ち出す可能性がある。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ ドイツ：I f o 業種別の先行き判断



出所：Ifo

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2012				2013							
	2Q	3Q	4Q	1Q	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
企業景況感(総合)	107.1	102.3	101.4	106.1	101.4	100.1	101.5	102.5	104.3	107.4	106.7	104.4
現状指数	114.8	110.9	107.5	109.4	110.2	107.3	108.1	107.1	108.0	110.2	109.9	107.2
先行き指数	100.0	94.3	95.6	103.0	93.3	93.4	95.4	98.1	100.7	104.7	103.6	101.6
業況判断	6.9	-2.5	-4.3	4.9	-4.2	-6.8	-4.0	-2.1	1.3	7.3	6.0	1.5
製造業	9.8	-2.5	-5.3	7.0	-4.1	-6.9	-6.2	-2.7	2.8	9.6	8.6	3.4
建設業	-4.7	-7.8	-8.5	4.6	-10.0	-11.5	-7.3	-6.6	-0.2	6.8	7.2	2.8
卸売業	8.6	0.5	1.7	1.6	0.0	-3.2	4.8	3.4	-1.4	6.2	-0.1	-5.2
小売業	2.3	-1.3	-2.4	-0.8	-4.1	-5.7	-0.4	-1.2	-1.2	-1.2	0.0	-1.1

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。